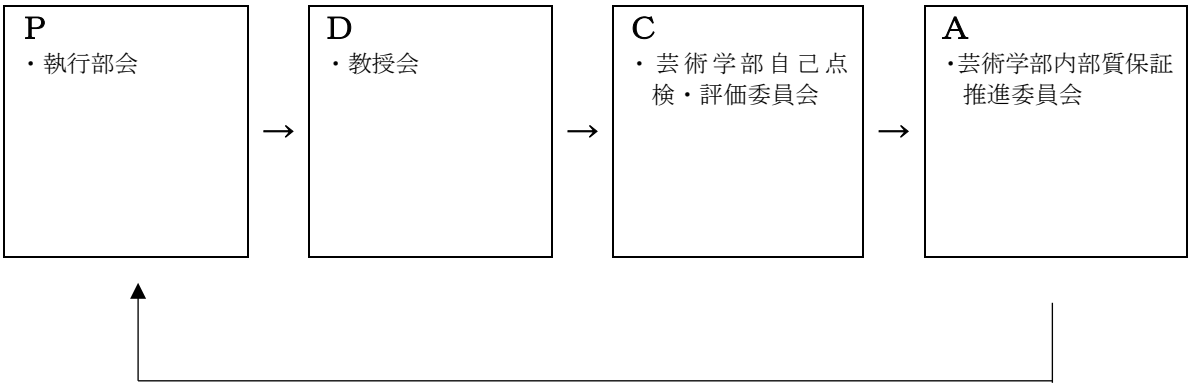
令和７年度全学自己点検・評価報告書

学部等名　　芸術学部

基準２ 内部質保証

１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。

＜評価の視点＞

・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

教学については，日藝ＩＲ推進室が所管する入試戦略ワーキング・グループにおいて収集・分析した教学情報及び学部戦略ワーキング・グループによる施策提案を基盤とし，学部長から各所管委員会へ諮問し，学務委員会等で実施可能か検討し具体化させ，芸術学部自己点検・評価委員会により点検・評価を行い，芸術学部内部質保証推進委員会による統括的管理をする，「日本大学芸術学部及び大学院芸術学研究科内部質保証体制」に基づく，ＰＤＣＡサイクルを令和７年度は構築している。この仕組みにより，授業評価アンケートや学生からの改善提案を学部レベルで検討・公開し，外部評価も組み合わせて改善を実施している。

また，授業評価アンケートの結果に関しては，全専任教員・非常勤講師へ結果を共有し，学部で定める基準値に満たない教員に関しては，各学科主任・学務委員・ＦＤ委員等から改善に向けた面談を実施，報告書の提出を義務付けている。その成果として，授業評価アンケートにおける「総合的に評価して良い授業でしたか」の設問項目では，「強くそう思う」「そう思う」の合計値が，令和５年度は前期 86%，後期 88%，令和６年度は前期 88%，後期 89%と高い水準を計測している。

学外評価においては，練馬区生涯学習センター長による外部評価を毎年度行い，その結果を芸術学部内部質保証推進委員会に報告し，指摘事項を迅速に改善する仕組みを構築している。

総じて，芸術学部の内部質保証システムとしては，芸術学部内部質保証推進委員会を開催し，芸術学部での質保証のために各項目について，審議している。

執行部会で大学運営に係わる教育・研究・管理関連の様々な案件を検討し，その後各種委員会や教授会にて実行に移す。実行された事項について，毎年芸術学部自己点検・評価委員会で確認・検討・評価し，その後芸術学部内部質保証推進委員会において，次年度や未来に向けた改善計画等を立案し今後に繋げていく流れとなっている。

また，毎年実施する執行部研修会において，一部を芸術学部内部質保証推進委員会として実施し，各担当・事務四役から１年間を振り返り問題点改善点をまとめ，次年度に向けた対応策や新規案件について，報告・審議することとしている。

これらを続けた結果，これまでのカリキュラム，授業内容，学部イベント，施設等，点検・評価（検討・検証）し，令和８年度学則変更，各種委員会や案件に関する内規，基準，要項，取扱を改めて精査し改正や制定することになり，学内での事案に対する取り組みや体制の改善・向上が図られた。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

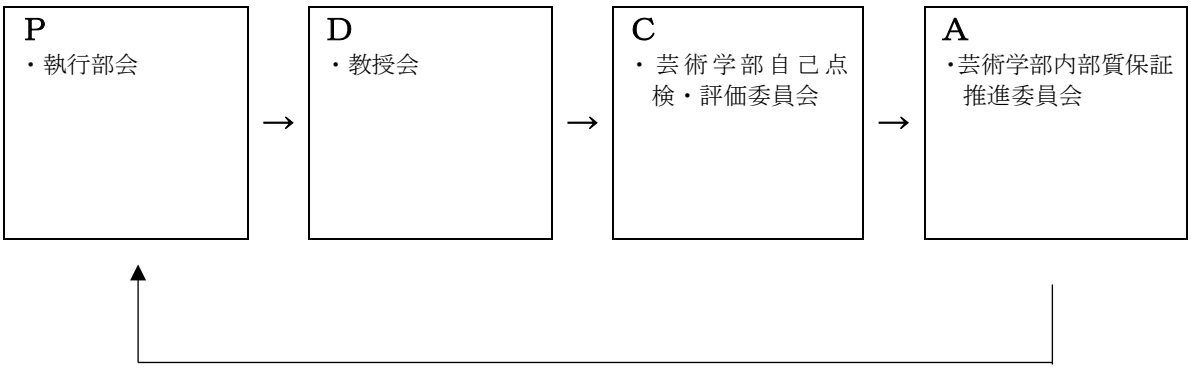
令和６年度大学評価（認証評価）結果において，基準４の概評で「学習成果の測定・把握が『科目単位』にとどまっており，学位授与方針に示す学習成果の評価としては不十分である」と指摘されている。基準２は基準４と相互に関連するため，学習成果の測定・把握方法を点検・評価することが求められる。例えば，芸術学部内部質保証推進委員会が主導し，科目単位に限定されない多面的かつ総合的な学習成果の測定・評価の仕組みを検討・導入するよう改善が求められる。

全学的な対応の方向性を提示する必要があると思料されることから，現時点で本学部では検証を実施していない。

全学的な対応の方向性が示された後には，その方向性に沿って執行部会にて検討し，年次的な計画を立てて実行する。

基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

学科や研究所の新設，学科の改組等及び教育研究組織の見直しについて進める場合，芸術学部では執行部会を中心に提起され，教学については日藝ＩＲ推進室（所管部署：教務課）が管轄する「入試戦略ワーキング・グループ」と「大学院教学戦略ワーキング・グループ」において，収集した各種教学情報の分析に基づく改善提案を学部長へ答申，これを受けた学部長がＦＤ委員会，ＳＤ委員会，芸術学部自己点検・評価委員会及びその他案件ごとに所管する委員会へ諮問することで，教学上の改善を進めている。諮問を受けた各所管委員会は，改善の結果について，執行部を中心とした芸術学部内部質保証推進委員会へ報告し，適正な改善・向上が成されているかを管理している。実施の決定については，最終的に教授会で決定される流れとなり，これらのサイクルで学則変更と合わせ数年単位で検討していく。研究組織については，芸術研究所運営委員会において学問の動向や社会要請等に対応した研究の発展に寄与すべく，学部研究費（個人・共同）等の適正な予算執行など，関連部署と連携を図りながら精査・検証を実施している。

総じて，芸術学部の教育研究組織の適切性については，執行部会で大学運営に係わる教育・研究・管理関連の様々な案件を検討し，その後各種委員会や教授会にて実行に移す。実行された事項について，毎年芸術学部自己点検・評価委員会で確認・検討・評価し，その後芸術学部内部質保証推進委員会で，次年度や未来に向けた改善計画等を立案し今後につなげていく流れ

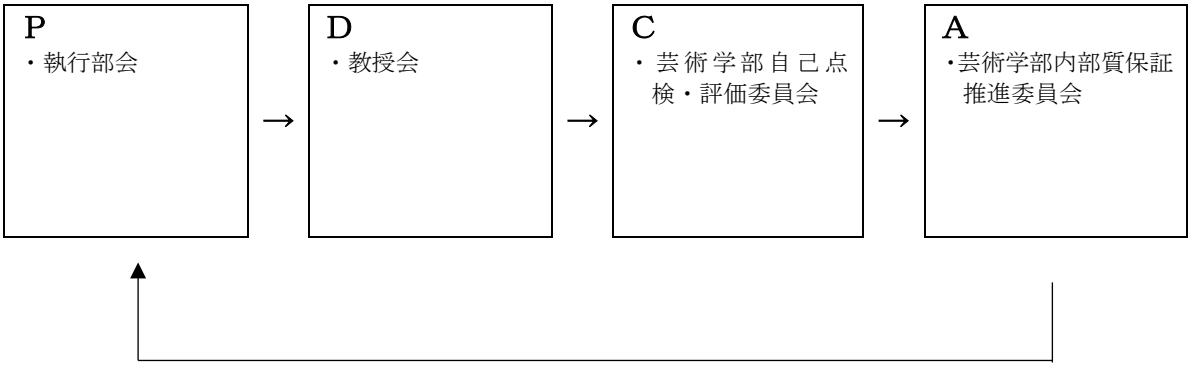
となっている。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

⑸　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

教育課程及びその内容，教育方法については，学内においては執行部会で点検・評価の基準等を定め，学生からの意見を取り入れて教育の質の向上を図るために，ＦＤ委員会において質問項目の検討を行った上で，前期と後期にそれぞれ学生による授業評価アンケートを行い，芸術学部自己点検・評価委員会により点検・評価を行い，芸術学部内部質保証推進委員会で改善・計画を行うサイクルとなっている。

学外者からの評価においては，令和４年度より練馬区生涯学習センターから継続で点検・評価を受けている。対象となる項目は，芸術学部における教育活動（入学者選抜・カリキュラム内容・学修方法・学修支援，学修成果，施設・設備，社会・地域とのつながり等）に係る評価及び要望・所感・改善点等の総評とし，点検・評価を依頼した。実施した結果については，執行部会や芸術学部内部質保証推進委員会で改善・計画し，その後実務として学務委員会等で速やかに改善を図る体制を構築している。

⑹　教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

内部質保証に関するシステムの整備のために，入学前志願情報から，教学情報システムのＧＰＡ情報及び外部アセスメント・テスト（GPS-Academic）等との情報と紐付け，入学後の学修状況と複合した分析を実施する計画である。また，これらの情報を芸術学部内部質保証推進委員会，執行部会，学部運営協議会及び各種所管委員会にて，報告・検討の基盤として取り扱う。これにより教育の内部質保証の核となる，学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）の本質的な検証に向けた入試区分別での入学後の成績分布，更には科目履修情報との紐付けによる効果的な教育課程の実施・編成方針（カリキュラム・ポリシー）の評価，その先の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の検証などに資することが可能となる。入学時の情報管理から在学時，卒業時までの情報をつなぐことで，効果的なエンロールメント・マネジメントの実施が期待される。

令和５年に学部長より，学びの自由度を高めるためのカリキュラム編成を目的とした学則変更の方向性が示されたことを受けて，学務委員会において検討を重ね，令和８年度入学者からの学則変更を行うことを教授会で審議・決定した。主な変更内容は，以下のとおりである。

(1)　ゼミナールや卒業論文・卒業制作等含め，全ての科目を半期科目に変更する。

(2)　芸術教養課程の卒業要件単位数を，芸術教養科目は 14 単位以上から８単位以上に，外国語科目は１か国語４単位を含む８単位以上から４単位以上に，体育科目は３単位以上から１単位以上（実技のみ）に変更する。

(3)　音楽学科は，現在の６コース制を音楽芸術コース（９専攻）と情報音楽コースの２コース制に改編し，新専攻として音楽文化マネジメント専攻を加える。

(4)　演劇学科は，４コース（10 専攻）制を舞台構想コース，演技舞踊コース，デザイン技術コースの３コース（10 専攻）制に改編し，新専攻として衣裳専攻を加える。

(5)　学外の芸術分野における実践的な学びとして，芸術活動の最前線で活躍される学外の講師を招き講義形式で実施する「芸術総合講座」と企業・行政等と協力しプロジェクト方式で実施する「連携型プロジェクト」との連携強化を図るため，共通選択科目に科目を集約する。

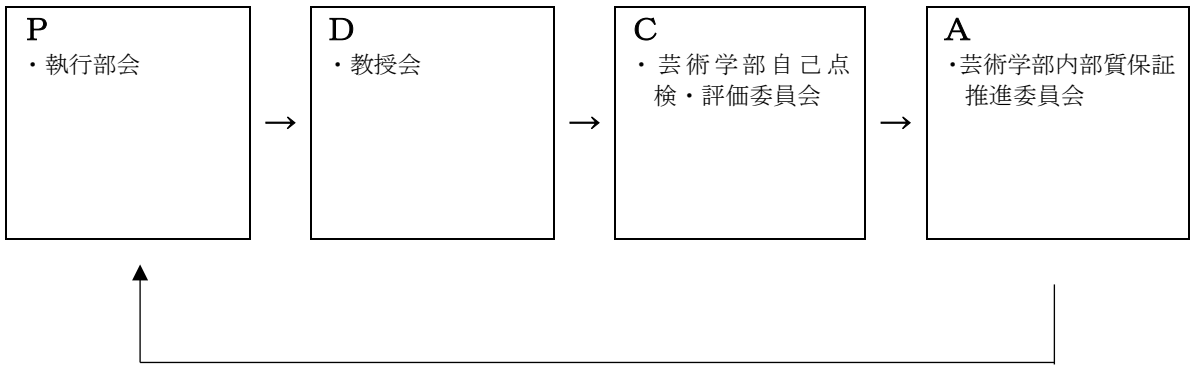
(6)　海外留学後の単位認定科目として，「海外基礎研究Ⅰ～Ⅵ」及び「海外発展研究Ⅰ～Ⅳ」を共通選択科目の「その他」に設定する。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊾　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

芸術学部の内部質保証システムのサイクルに関しては，執行部会で計画を立て，教授会で決定・実行，芸術学部自己点検・評価委員会が評価・確認，芸術学部内部質保証推進委員会が改善・検討を行うことになっている。

入試広報に関しては，入試戦略ワーキング・グループを中心に徹底したデータ分析を行い，学部長宛てに短期・中期・長期の計画の答申をすることとしている。その実施結果を入試実務委員会や広報委員会で点検・評価の上，年ごとに大きく変化する受験市場に即応した対応を行い，芸術学部自己点検・評価委員会により点検・評価を行い，芸術学部内部質保証推進委員会による統括的管理をする仕組みを構築している。

総じて，芸術学部の内部質保証システムとしては，芸術学部内部質保証推進委員会を開催し，芸術学部での質保証のために各項目について，審議している。

執行部会で大学運営に係わる教育・研究・管理関連の様々な案件を検討し，その後各種委員会や教授会において実行に移す。実行された事項について，毎年芸術学部自己点検・評価委員会で確認・検討・評価し，その後芸術学部内部質保証推進委員会において，次年度や未来に向けた改善計画等を立案し，今後につなげていく流れとなっている。

多様な受験者層の獲得のために，接触型・非接触型問わず，デジタルコンテンツ広報に努めている。志願者数は，令和６年度 4,437 名に対し，令和７年度は 4,237 名となり 200 名減少したが，過去５年間の志願者数については，令和３年度志願者数は 3,443 名だった志願者数から，

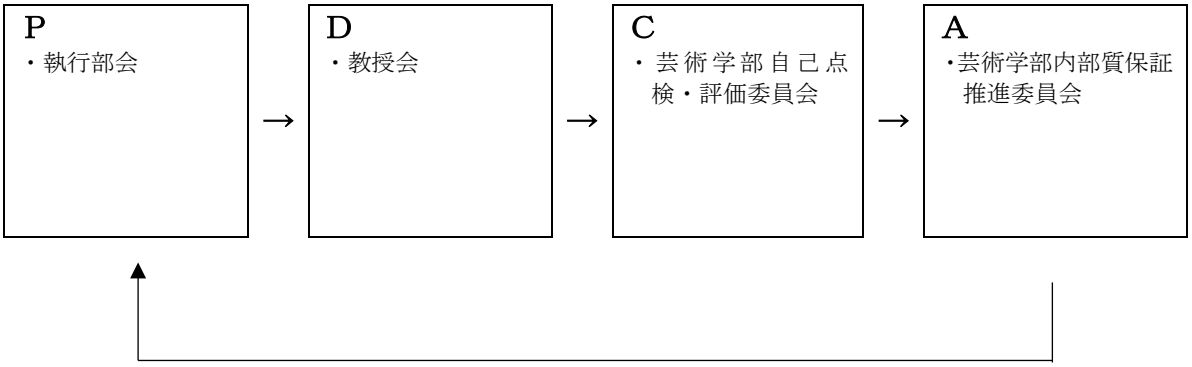
増減がありつつも令和７年度では 4,237 名と 794 名増加している。
　特に一般選抜の志願者合計数は令和３年度の 2,201 名から，654 名増加し 2,855 名となった。これは入試広報戦略として打ち出した「専門試験を課さない併願しやすい入試」という制度変更が前年度合格者数実績と相重なり受験生や予備校に定着した結果と考えている。
　一方で，一般選抜Ｎ全学統一方式（第１期）専門試験併用型（旧Ａ個別方式）においては，令和３年度の 1,227 名から 344 名減少し 883 名となった。本学部への入学を強く希望し，専門試験対策に時間をかける受験生を年内入試以降でいかに確保していくかが今後の課題である。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準６ 教員・教員組織

１　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑱　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

芸術学部の教員組織に関わる事項としては，定期的に教員人事委員会や執行部会，学部運営協議会を開催し，教員昇格・採用方法や基準等の見直しを諮り，毎年改善を図っている。

総じて，芸術学部の教員組織に関わる事項については，執行部会で検討し，その後各種委員会や教授会において実行に移す。実行された事項について，毎年芸術学部自己点検・評価委員会で確認・検討・評価し，その後芸術学部内部質保証推進委員会にて，次年度や未来に向けた改善計画等を立案し，今後につなげていく流れとなっている。

具体的には，採用候補者には業績審査後に学部長及び学部次長による面接を実施，教員昇格候補者には教員人事委員会において自身の教育及び研究構想についてのプレゼンテーションを実施してもらい，学部運営を担当する教員（教員人事委員会委員）向けに自身の教育及び研究構想並びに業績についてプレゼンテーションを実施すること，またそこでの質疑応答も含めて，教員間での互いの認識につながり，他学科間での関係性が薄い教員でも専門領域や研究内容を知る機会となり，結果的に学部内でのコミュニケーションの循環が可能となり，関係性の向上を図ることができている。更に採用試験等については，毎年教員人事委員会で議論を重ね，基準の確認，実施方法の改善を図り，芸術学部自己点検・評価委員会から芸術学部内部質保証推進委員会でもそれらの事象を上程・検討することで，次年度へとつなげるプロセスを確立させている。

その結果，助手・助教採用試験，教員昇格，特任教授，客員教授採用時の基準及び非常勤講

師の取扱を制定，改正，検討することで，教育の質の担保や教員組織構造の改善・向上を図ることになった。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

直接声を掛けて採用候補者とする場合の選定過程の透明性や客観性の確保については，より明確な方針や手続の整備が今後の課題となり，改善が求められる。

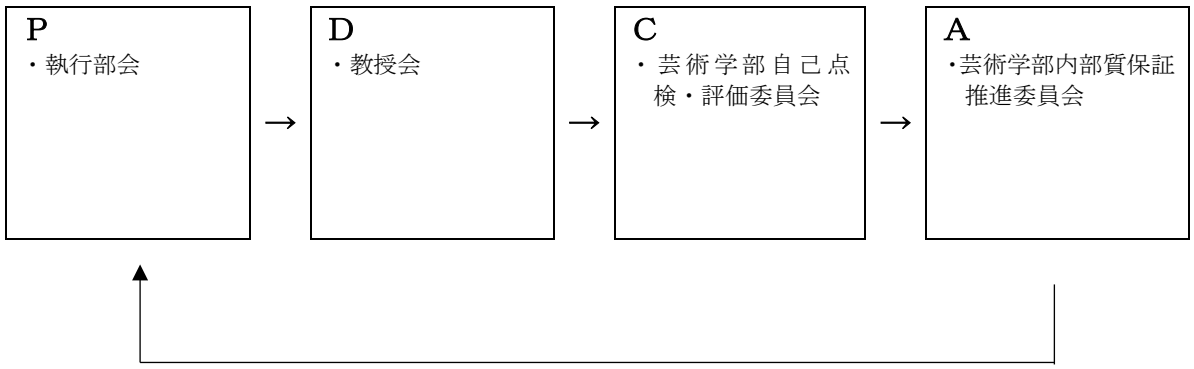
執行部会で明確な方針を定め，その方針に沿って選定過程の透明性や客観性を確保するため，以下の方法にて対応したい。

芸術学部の教員採用時の公募以外の選定方法について，学部・学科課程としての採用方針と手続方法が，どのように実施されるかを予め提示できるよう促すこととする。採用方針については，原則「３つのポリシー」の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー），教育課程の実施・編成方針（カリキュラム・ポリシー及び学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）が示されているため，３つのポリシーに賛同し，実現できる教員の採用であることが前提となっている。

選定の方法については，教員人事委員会に諮る前の段階の学科・課程での選考方法を，採用申請書の様式に設定することにより，学科・課程内でどのような基準，方法，学科・課程会議での意見聴取内容を記載され，学科・課程内からの申請段階での選考方法を含めて審議することが可能となる。その後，採用候補者については，教授会に上程・審議され，学内者・学外者を含めた形での業績審査を経て，採用審議となる。それらの工程を芸術学部自己点検・評価委員会で評価し，総括的に芸術学部内部質保証推進委員会にて確認し，今後の改善に向けて対応することになる。

基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

執行部会で学生支援の様々な案件を検討し，その後各種委員会や教授会にて実行に移す。実行された事項について，毎年芸術学部自己点検・評価委員会で確認・検討・評価し，その後芸術学部内部質保証推進委員会にて，次年度や未来に向けた改善計画等を立案し今後につなげていく流れとなっている。

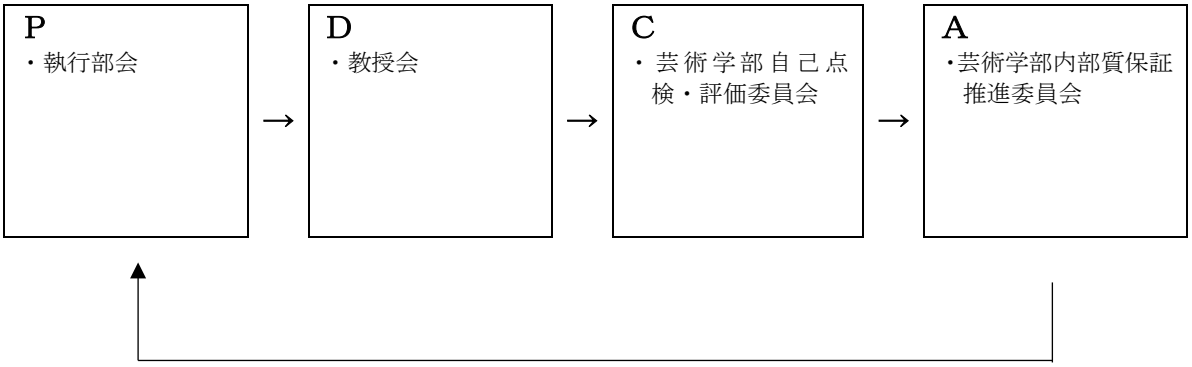
令和７年度は，「購買部，食堂等の運営業者選定に係る取扱要項」の制定に伴う計画として，学生生活委員会にて学生及び学科にアンケートを実施した。その結果を受け，年度中に学生食堂の券売機を増設し，令和８年度の学生応援ランチ増食を決定した。今後は芸術学部自己点検・評価委員会の評価・確認及び芸術学部内部質保証推進委員会の改善・検討を受け，次年度は改めて学生食堂及び購買部の運営業者を公募で選定する。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準８ 教育研究等環境

１　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑭　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

執行部会で研究等環境の案件を検討し，その後各種委員会や教授会において実行に移す。実行された事項について，毎年芸術学部自己点検・評価委員会で確認・検討・評価し，その後芸術学部内部質保証推進委員会で次年度や未来に向けた改善計画等を立案し，今後につなげていく流れとなっている。

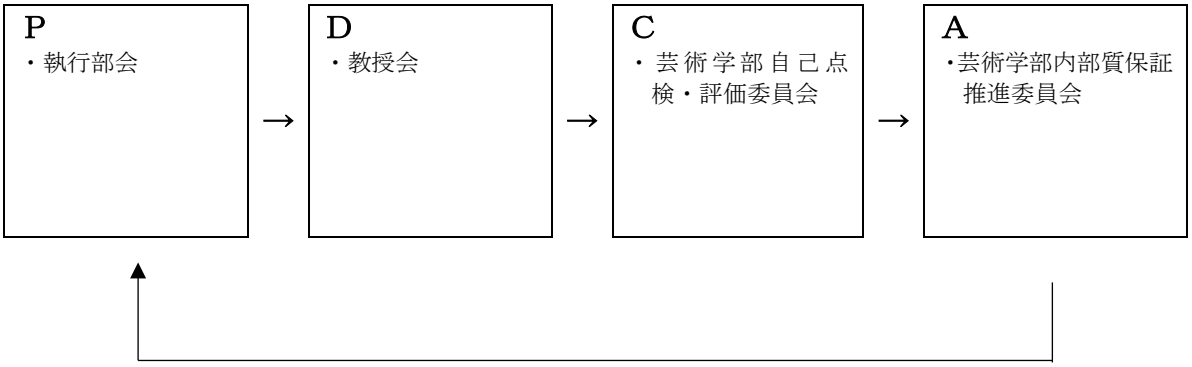
芸術研究所運営委員会において，学部研究費（個人・共同）及び本学部独自の川野希典研究費，杉浦仙之助・うめ研究費等に係わる諸事項の情報等を共有し確認している。研究事務課において，複数名で研究遂行のために提出書類の精査・検証を行い，芸術学部自己点検・評価委員会が点検・評価を実施し，サイクルを回している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準９ 社会連携・社会貢献

１　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

芸術学部の社会連携・社会貢献に関わる事項について，全体的な流れとして執行部会で社会連携・社会貢献に関わる案件を検討し，方向性を決める。その後，各種委員会や教授会において実行に移す。実行された事項について，毎年芸術学部自己点検・評価委員会で確認・検討・評価し，その後芸術学部内部質保証推進委員会にて，次年度や未来に向けた改善計画等を立案し今後につなげていく流れとなっている。

学生と教職員，企業や自治体との産官学連携の連携プロジェクトの実施可否の検討や学内周知を目的とし，定期的に連携企画委員会や学務委員会，学部運営協議会を開催し，精査している。社会連携・貢献に関わる連携プロジェクトの実施後については，学部運営協議会においてプロジェクトの実施内容と所感，次回実施への改善点等を報告書にまとめ，報告し実施サイクルを回すためにも検証している。その後，芸術学部自己点検・評価委員会で確認し，芸術学部内部質保証推進委員会が改善・検討を図っている。

連携プロジェクトを通して社会連携・社会貢献に携わることで，学生が学んでいる領域がどれだけ社会と密接に関わっているか，影響を与えるのかを学生自身が学ぶ場となっている。参加した学生各々に意見を聞くと学科間横断のつながりを求めていることがわかり，大変好評である。また学生も教員も外部とのつながりを深めることで，学内ではなく社会へと意識を向け始めており，取組方法や広報活動を毎年度改善することで，参加する学生や教員も増加し，継

続案件や単発案件を含め，関係する企業や自治体から新たな依頼を受け，連携プロジェクト数が年々増加している傾向にある。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし